

改訂版の発刊にあたって

わが国は、人生80年時代といわれる高齢社会を迎えておりますが、一方では、寝たきりや認知症、あるいは咀嚼・嚥下困難といった摂食・嚥下障害等により、食事介護を必要とする高齢者が増加傾向を示しております。

また、生活習慣病が国民の死亡原因の約6割を占めていることを反映して、働き盛りの年齢層にあっても脳卒中や神経・筋疾患による麻痺、さらには糖尿病の合併症に起因する視覚障害等により、自分で食事が「作れない」、「食べられない」といった障害のある方々が増加の一途をたどっております。

こうした状況のもとで、医療施設や福祉施設に入っておられる方々は、それぞれの食事に関わる障害に対応した食事の提供と介助を受けることができます。しかし、在宅の高齢者、障害のある方々にとっては、それもかなわず、食事が十分に摂取できない、食事の楽しみが満たせないといった問題をかかえており、また、食事介護にあたる方々の苦勞はたいへん大きなものとなっております。

なお、食事介護にあたっては、ホームヘルパーの方々や家族の理解と支援が欠かせませんが、あわせて、喫食に障害のある方々に向けた具体的な食事づくりの留意事項やレシピ、食事介助の方法等についてわかりやすく解説したマニュアルが必要となります。

本書の前身である『高齢者の食事介護マニュアル』は、1996年に高齢者の食事介護に携わるホームヘルパーの方々に向けて刊行されました。本書は、長年にわたり高齢者福祉施設の栄養管理や介護福祉士の教育養成等の業務に携わってこられた諸先生方の経験と研究成果等をもとに、高齢者に限らず、摂食・嚥下に困難のある方々の食事介護に携わる関係専門職の方々やホームヘルパー、家庭で介護にあたっておられる方々に役立てていただくことに視点を置いて改訂したものであります。

実践活動に役立つよう、できるだけ具体的にわかりやすい内容にすべく努力したつもりですが、まだまだ不十分な箇所が多く残されておりますので、読者のご批判・ご意見をいただいて、よりよい内容に改訂していきたいと考えております。

最後に、本書の刊行にあたり多大なご援助をいただいた第一出版株式会社の石川社長、加藤常務、並びに編集部の方々に心から感謝の意を表します。

平成19年7月

東京聖栄大学教授
著者代表 **山崎文雄**